

◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

蜀素帖

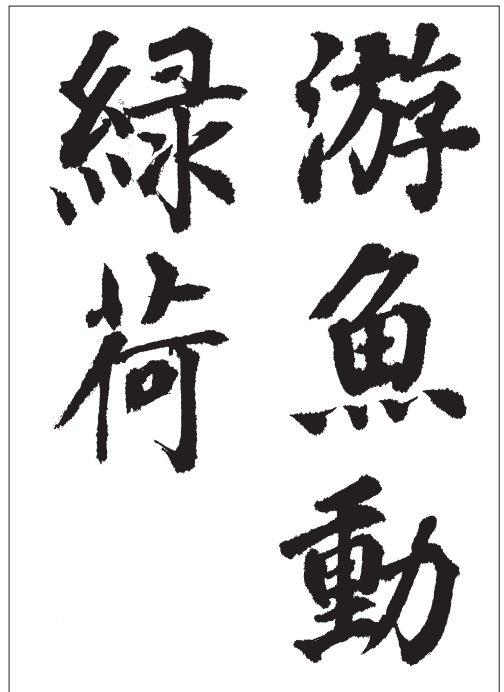


- 1、字句 亀鶴
- 2、形式 半紙タテ使用。中央に「龜鶴」と臨書し、左余白に落款「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観 宋の四大家は蘇軾・黄庭堅・米芾・蔡襄をいうが、米芾は専門的知識・鑑別・臨摹による古法の探求をとおして新書風を築いた。友人の蔡肇によると、「米芾は幼少の頃から秀才で、六歳になると日に律詩百首を読み、それを暗誦することができたという。更に青年になって学問がよく出来、科挙の試験に合格する程であったにもかかわらず受験するのを好まなかったという。芾の書は、線が勁く、形も整って落ち着いていて、羲之・献之はじめ唐代の名手のような雰囲気をもっている。」と述べている。
- 4、各字のポイント

龜 筆順、不明瞭ですが、「フ」と判断しました。三画目は内に、四画目細線で、△で筆を突き払う。「ク」から「ヨ」に連続。「ヨ」の横画は連筆・方向の変化見極めたい。「し」は、○で一旦止まり直角に連筆し大きくハネ上げる。「目」の部分の横画も連筆・方向の変化を。鶴 一、二画目はしっかり押し、三画目は反らせる。四画目は左に膨らませ末筆は内へ。「佳」の横画は、線質・方向・間隔の変化をよく読み取りたい。傍の一画目は重く、二画目三画目は下すばまり。やはり、ここも横画の処理の仕方学び取りたい。

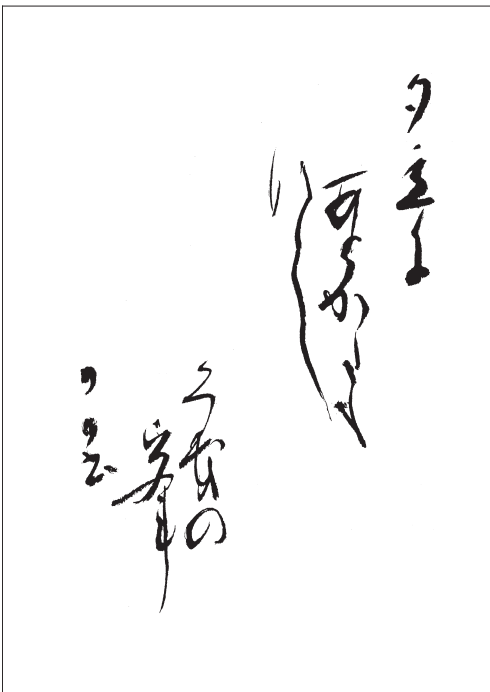
八〇〇号記念昇試第三部 (漢字・かな) (予告) (八月二十二日締切)

平岡華雪先生書 游魚緑荷を動かす (陸游)



訳：池の魚が蓮の葉を動かしてたわむれている。

平岡華雪先生書 夕立にあとかたもなし雲の峰 (正白)



授賞式に出席して

本 沢 優 香

風薫るさわやかな五月十六日、書
苑会本部に於いて、書苑大賞・書苑
準大賞・部門賞並びに、春の推薦合
格の授賞式が行なわれました。例年
でしたら、「書苑の集い」での式と
なりますが、本年度は、記念すべき
八〇〇号を迎えるにあたり、誌上展・
祝賀会開催が秋になるため、今回は
本部での授賞式となりました。

当日、高橋香樹会長、平岡不二子
先生のもと、八名が出席いたしまし
た。高橋先生より、賞状と賞品を手
渡して頂き、改めて夢のような受賞
を現実と実感いたしました。その後、
先生より羊毛筆について、その運筆
法、創作の楽しさ、毎月の作品を休
まず提出する事の大切さなど大変重
重なお話を伺いました。身の引き締
まる思いと今後も更に精進していく
気持ちを改めて心に留めました。又、
皆様との歓談の中、それぞれに苦心



して作品をつくり上げているとお
話に、頭を悩ませているのは同じだ
と、正直ほっといたしました。
この度の思いがけない受賞の喜び
を胸に、これからの一層の励みにし
たいと思います。これまで、ご指導
下さいました諸先生方、事務局の方々
に、心よりお礼申し上げます。

高橋香樹先生に御指導をいただいて

柘書道会 東 城 葉 子

私共、柘書道会（小平上水地域セ
ンターグループ）は、田中柘華先生
が病に倒れられてから月に二回、小
林崇華さんに添削指導を受けながら
稽古しております。そして、この
春の昇級試験前には、幸運にも高橋
香樹先生の直接指導を仰ぐ機会を得
ることができました。

当日は先生に見られているという
緊張で筆運びがいつも以上にきち
なくなりましたが、先生には雑談を
交えながら様々なご指導をいただき
ました。特に、手本を真似するので
はなく、自分で考えて表現すべきだ
ということを教えられました。いま
で手本に近づくことだけを考えて書
いてきた私にはとても痛い言葉でし
た。また、筆の表と裏を使うこと、
運筆のスピードと墨の濃淡の関係、
さらに一枚の作品として仕上げるこ
きの右行と左行のバランスなど、亡

き田中先生に何度も言われていたの
に忘れかけていたことを改めてお教
えいただき、書道の基本に立ち戻る
ことができたように思いました。
今回のご指導を心に刻み、これか
ら稽古に励み、自分らしい文字が
表現できるよう努めてまいりたいと
思います。高橋先生、ご指導ありが
とうございました。

高橋香樹会長の出張条幅講座実施中
指導者の高齢化等により自主的に
学習している支部や漢字の条幅講座
を受講したい支部は、事務局までご
連絡下さい。詳細をお知らせします。





龜鶴年壽齊 羽介所託殊 種々は靈物 相得 (忘形軀)
龜鶴年壽齊し 羽介託する所殊なる 種々はれ靈物 相得んや (形軀を忘るるを)
鶴と龜はともに長生きという点では同じであるが、羽と甲羅で、身を寄せるところが異なっている。それぞれ靈験あらたかな動物であるが、どうして自分の肉体を忘れることがあるのか。

※随意部参考 (半紙・条幅) としてもご活用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書 (七月二十二日締切)

課題

為

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
 一字と記入 段級は無記入

A 鈴木静村先生書

掃石共看山色坐 枕書同聽雨聲眠 (許棊)
石を掃い共に山色を見て坐し、書を枕にし同じく雨声を聴きて眠る (許棊)



B

高橋香樹會長書

筆は純羊毛の三号筆。たっぷり含ませると五、六字は楽に書けます。墨継ぎは坐と雨。草書は一般的な坐・雨の二字。画の傾きと字幅を主調にしましたが、眠はやや小さくしたい。同の二画は少々ムリ、まねしないほうがよい。掃、枕の第二画を高く突き出しているが、これは王鐸に多い。第三画を左に張り出すと動勢が表出できます。眠の点は「舞うが如くに打つ」のが、行草でのセオリー。



今月は、墨継ぎ以外は全て連綿するとの意気込みで書きました。連綿線は、前にも書きましたが、前字の右下から次字の左上への動きが多くなりますが、前字を中程で終らせ、次字も中心に近いところから始めることにより、右から左への長い連綿という弊害を少し取り除くことができます。と同時に、行の流れに変化を与えることになりました。墨継ぎは「坐」と「聽」です。
訳：山色を見るために石上を払い清めて共に座し、雨を聞いては書物を枕として眠るのである。

予告 八〇〇号記念昇試第一部漢字(八月二十二日締切)

清霜碧澗松聲静

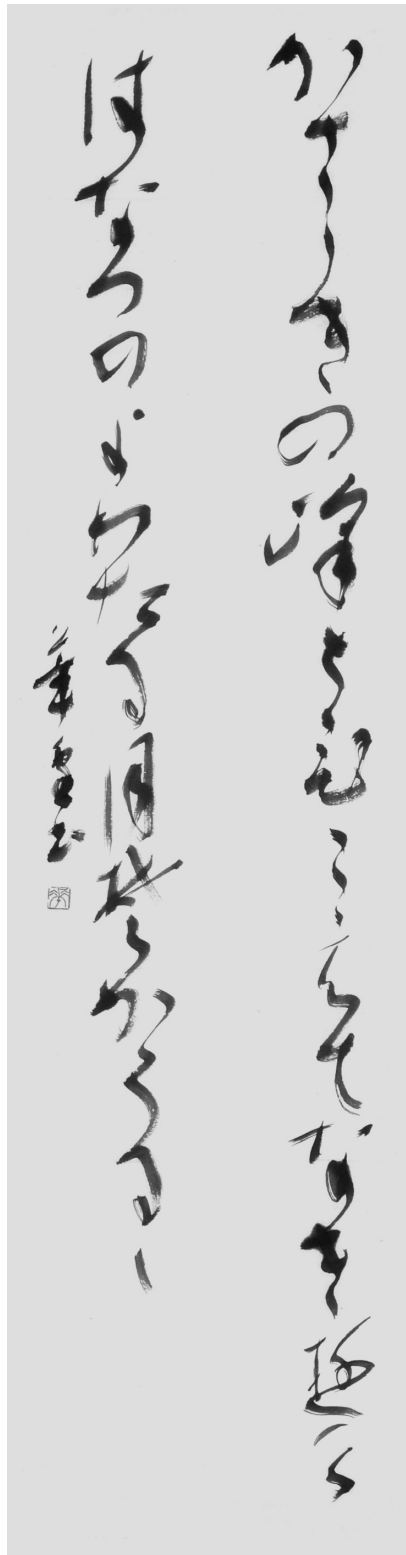
急雨丹峰鶴唳多 (吳兆騫)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

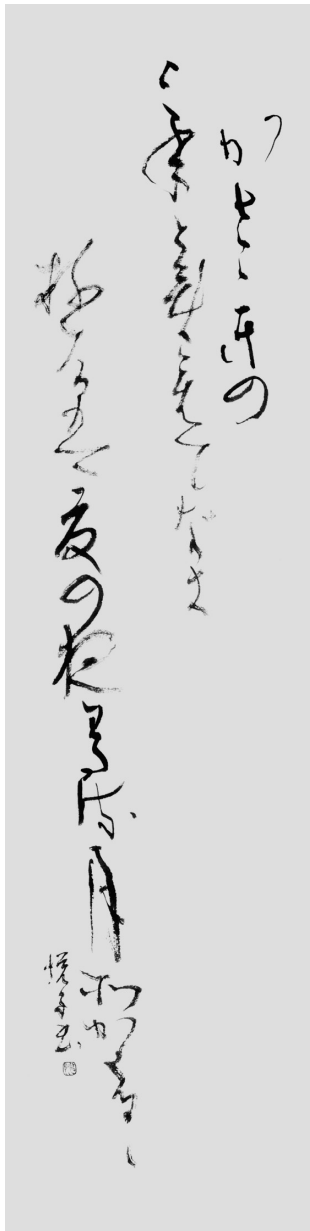
かき、きの峰飛びこえて鳴きゆけば夏の夜渡る月ぞ隠る、(後撰和歌集 読み人しらず)
かき、きの峰と飛びこえてなき遊介はなつのよわたる月楚か久る、



B

長野悦子先生書

かき、きの三年と飛びこえてな支遊介盤夏の夜王多流月所か久る、



破鏡の説話

仲のいい夫婦が、離れ離れになってしまふ時、互いを忘れない為に鏡を半分に分けて互いに身につける。その妻に他の男性が通おうとする際、思いの鏡は鶴に変化して、夫の前に飛んで行き、それによって夫婦は再会できた。

学び方

半切・和歌三行書
 かな作品にとって余白を美しく見せることは重要なポイントです。墨量の配分と渴筆の調和、墨継ぎの位置、さまざまなの行の長・短、変化によって形式を多様化させることができます。
 後撰和歌集

古今和歌集のような序文が付されていないため、成立年時は不明である。村上天皇の下令によって編纂された二番目の勅撰和歌集。体裁は「古今和歌集」に倣い雅(四卷)、離別(附、羈旅)、賀歌(附哀傷)の二十巻からなり、総歌数は一、四二五首。前代の古今集と違い、撰者の歌がない。古今時代の歌人が再び主役を演じた。中務、右近ら当代の女流歌人の活躍も見られる。貴人の日常生活に基づいた「藝(け)」の歌が多いのもこの集の特色である。

予告 八〇〇号記念算試第一部かな(八月二十二日締切)

夕されば野辺の秋萩うら若み露に枯れつ、秋待ち難し(訓読万葉集)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条幅部 随意参考

高橋紫芳先生書

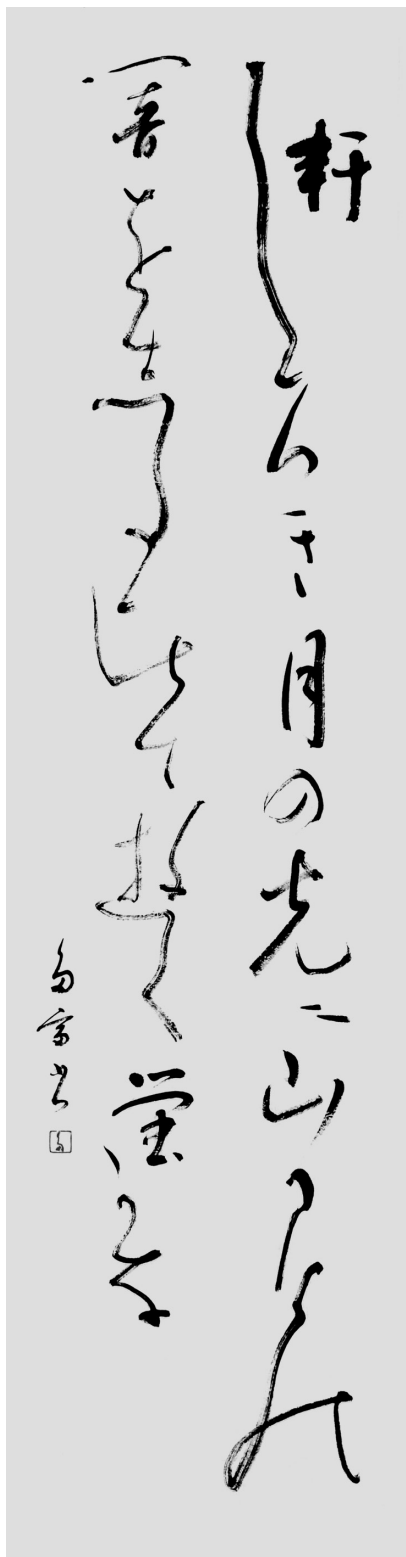
風清人倚樓（劉汶）
かぜきよ ひとろう
風清く人楼に倚る。



訳：吹く風は清く涼しく人は楼の欄干にもたれている。

森 多富先生書

軒しろき月の光に山かげの闇をしたひてゆく螢かな（玉葉集 宮内卿）
軒しろき月の光に二山可介能闇を志多比て遊久蛩可奈

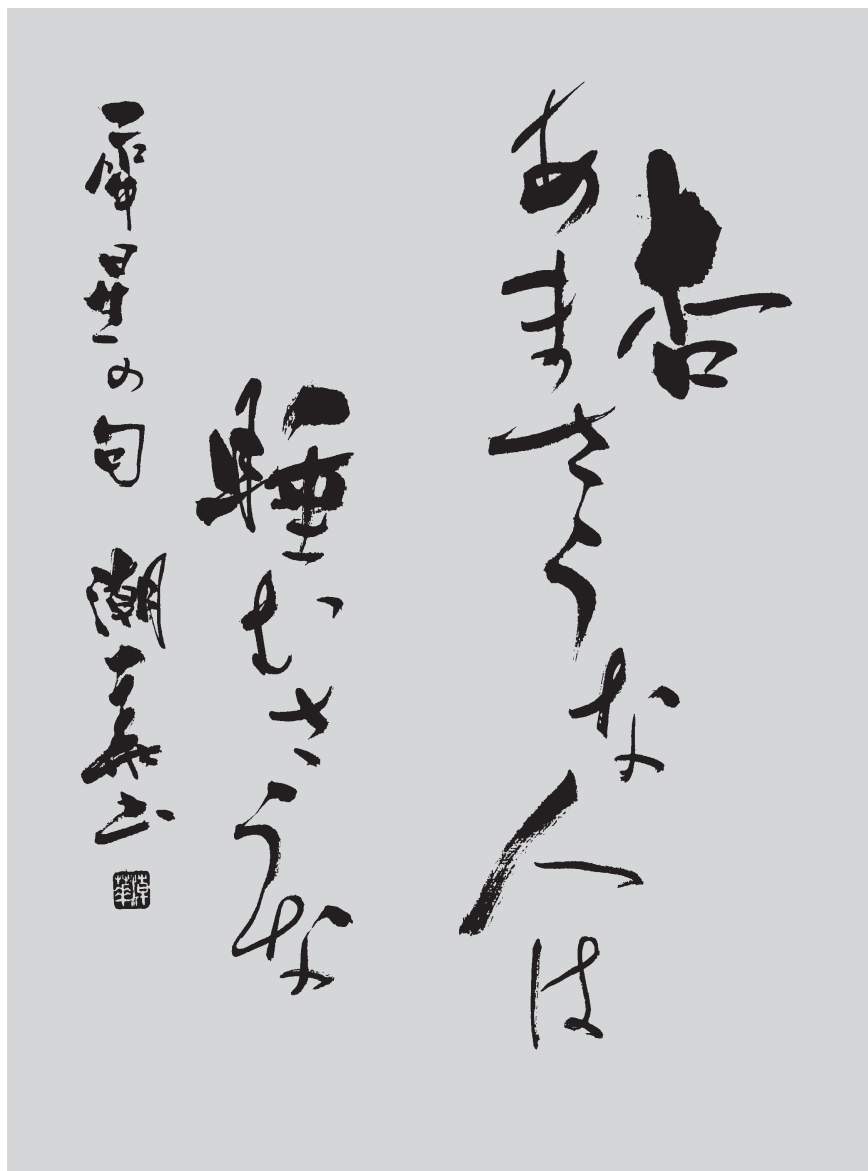


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

水貝潮華先生書

杏^{あんず}あまさうな
人は睡^ねむさうな
室生犀星

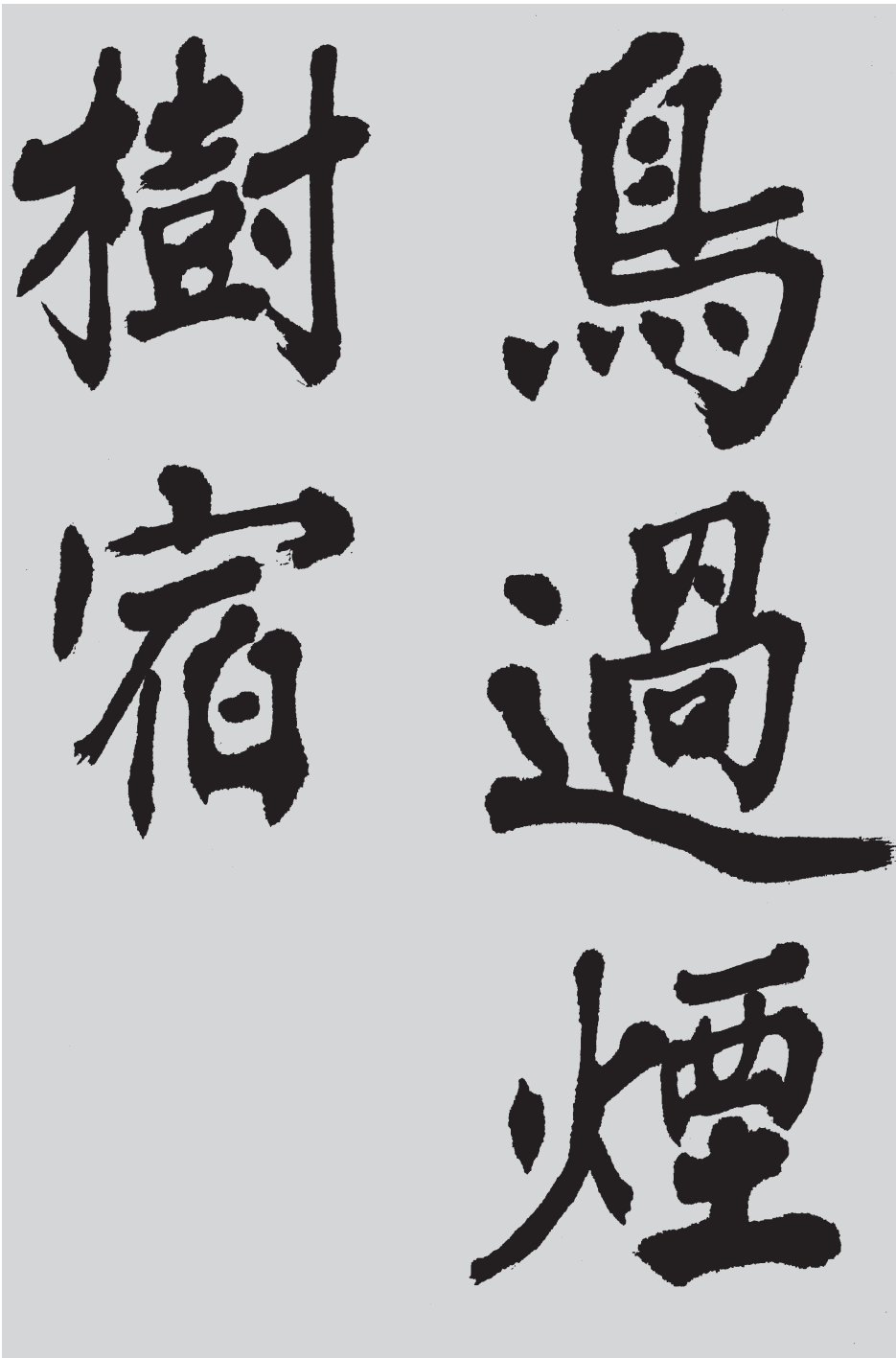
今月の作品は「杏」でたっぷり墨をつけて書きはじめ、それを受けるため、「睡」で墨を入れました。また同じ言葉が使われているので、行のゆらぎで変化をつけてみました。みなさんもそれぞれに変化を考えて書いてみてください。



室生犀星 (一八八九〜一九六二)
金沢市生まれ。詩人・小説家。少年時ひとまず俳句を学び、やがて詩作に没頭したが、親友芥川龍之介の影響で再び俳句に復帰。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

鳥は煙樹を過ぎて宿り(孟浩然)
 訳：鳥はけむった樹を探してねぐらとし。

〈各字の留意点〉

・鳥Ⅱ一、三画の間細長く、連火は下がらぬように。
 ・過Ⅱ之繞がポイント。
 ・樹Ⅱ左右のタテ
 初めの揺ぎが大切。
 ・煙Ⅱ三画は、四画の位置まで垂直に。
 ・樹Ⅱ左のタテ
 画はすっきりと決める。
 ・宿Ⅱ冠が主要、三画は細めに。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

吹き乱す七夕竹の風かな (虚子)
 吹き三多須七夕竹のあらし可那

〈細かい筆意に〉
 「三」での留意点は三画の方向と傾き。単に点でなくリズムも入れて。「須」の旁も同様。「夕」の点、この位置が微妙。「竹」左部分細く右部分太く末画を離した手法。「の」一氣に円曲させず「味」の表出を。



予告 八〇〇号記念昇試第二部かな (八月二十二日締切)

夏の夜のふすかとすればほととぎすなくひとこゑに明るしのめ (古今和歌集)

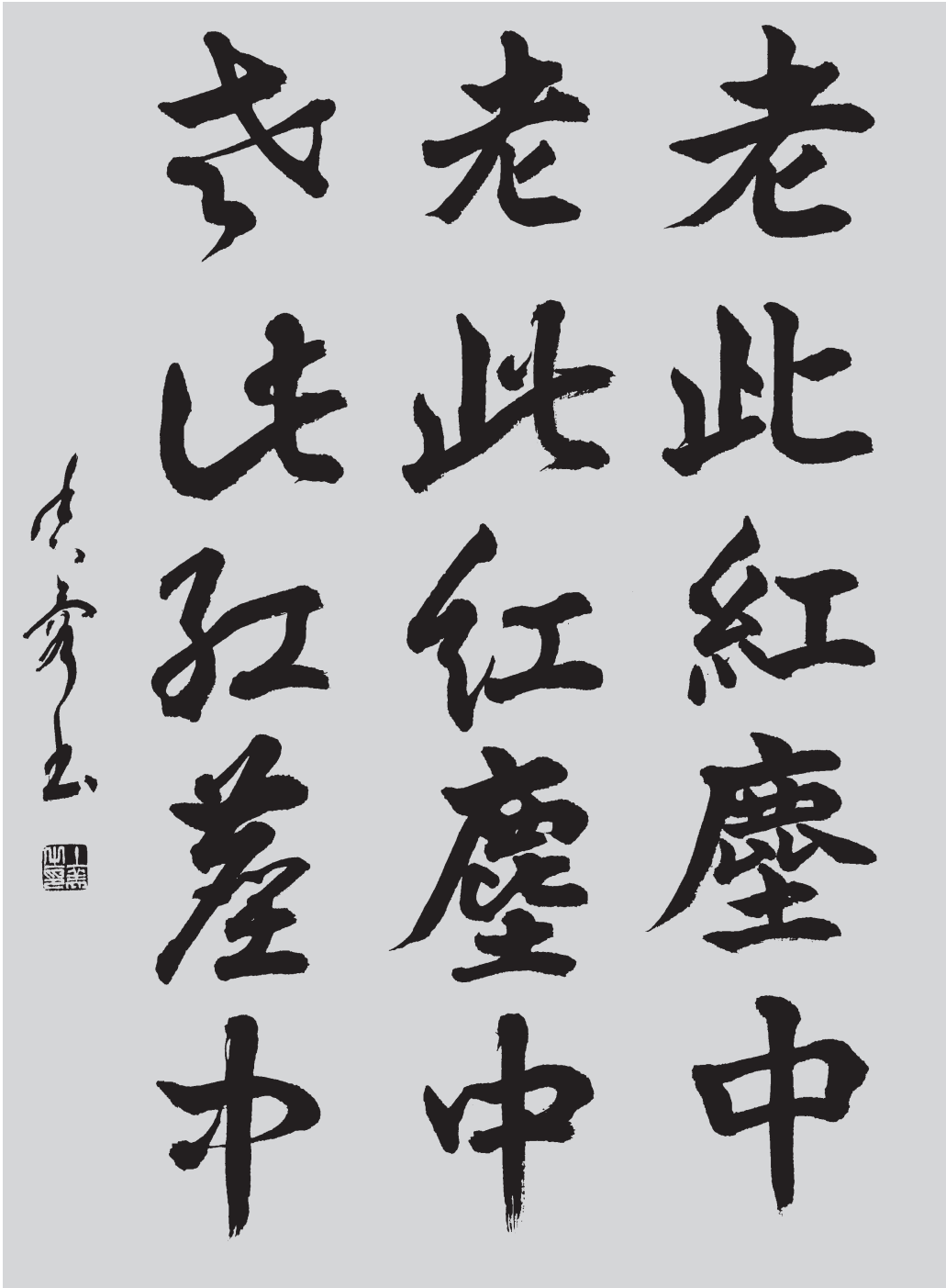
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

川上香蓉先生書

老此紅塵中（良寛）
此の紅塵の中に老ゆるやと、

訳：どうして紅塵のちまたに老いるやと、



予告 八〇〇号記念昇試第一部漢字（八月二十二日締切）

欲答兩不道（良寛）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

稲畑暁穂先生書

夏緑新（韋應物）
かりくまた
夏緑新なり。



訳：（積雨に時物変じ）夏緑は園に満ちて新なり。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

天の川が真上にかかって、穂高の
幾つもの峰々は巨大な黒い山塊と
なっていて眠っている。

風はなく、目に捕えがたいほどの
七月の霖雨が、海にも街にも
煙そいた。風景はやわらかく
滲み、スーラーの絵であった。

課題1 (初段階以上)

風はなく、目に捕えがたいほどの七月の霖雨が、海にも街にも煙っていた。風景はやわらかく滲み、スーラーの絵であった。

「夏の終り」 瀬戸内寂聴

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

天の川が真上にかかっていて、穂高の幾つもの峰々は巨大な黒い山塊となっていて眠っている。

「日本紀行」 井上靖